

軽度認知障害における手段的日常生活活動の評価尺度に関する文献研究

佐藤菜々¹⁾、能村友紀²⁾

- 1) 新潟医療福祉大学作業療法学科 3年
- 2) 新潟医療福祉大学作業療法学科

【背景・目的】軽度認知障害（Mild Cognitive Impairment：MCI）は認知症ではないが軽度な認知機能の低下を有する状態であり、認知症の前駆症状として捉えられている。わが国におけるMCIの有病者数は約400万人と推計されている¹⁾。MCIは日常生活活動に支障がないと定義されるが²⁾、Jekelら³⁾によるMCIの手段的日常生活活動（Instrumental Activities of Daily Living：IADL）低下に関するシステマティックレビューでは、IADL低下のあるMCIは認知症移行へ高いリスクがあると報告されており、MCIのIADLを評価する重要性について述べている。しかし、わが国のMCIに対して用いられているIADL評価尺度に関する調査報告は見当たらない。

そこで、本研究はわが国で過去10年間に報告されたMCIのIADLに関する文献をレビューし、MCIのIADL評価尺度に関する特徴について調査することを目的とした。

【方法】調査方法は、医学中央雑誌およびCiNiiをデータベースとし、「軽度認知障害」、「Mild Cognitive Impairment」、「日常生活活動」、「ADL」、「IADL」のキーワードを組み合わせて検索した。検索日時は2016年5月9日13-17時と5月16日13時-17時の2回実施した。検索期間は2005-2016年の10年間とした。

検索にて得られた原著論文から、MCIを対象としIADLを調査している論文を抽出した。

【結果】文献検索を実施した結果、411件の論文（医中誌Web 365件、CiNii 46件）が抽出された。この中から重

複論文を除いた原著論文であり、MCIを対象にIADLを調査している7件を最終対象論文とした（表1）。

7件の論文のうち、標準化された評価尺度を使用している文献は3件、研究者によってオリジナルに作成された評価尺度を使用している論文は4件であった。縦断研究は2件、横断研究は5件であった。健常者とMCIのIADLを比較していた論文は4件であった。

【考察】今回、わが国におけるMCIとIADLに関する文献レビューから、対象になった論文は7件と少ない現状であった。また健常群と比較していた論文は4件であり、今後はMCIのIADL低下に関する横断的および縦断的な疫学研究が必要であるといえる。

IADL評価尺度については、統一された評価尺度は使用されておらず、オリジナルで作成された評価尺度が使用されていた。標準化された評価尺度は一般的に使用されているものであり、MCIに特有な評価尺度が存在しないことが把握された。Jekelら²⁾は、IADLについて現代生活で日常的になっているコンピューターの使用や新しい家電製品の取り扱いなどの遂行能力を評価する必要性を示唆しており、今後はMCIが障害されやすい評価項目を検討する必要があるといえる。MCIのIADL低下の特徴を把握することは、MCIの早期発見や生活障害を把握する上で意義があるといえる。

【結論】わが国におけるMCIにおけるIADLに関する報告は少ない現状であった。IADL評価尺度は統一したものを使用されておらず、MCI特有のIADL評価尺度は存在していないことが把握された。

【文献】

- 1) 厚生労働省，認知症施策の現状について，http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihosho-utantou/0000065682.pdf. 平成28年8月18日閲覧.
- 2) Petersen RC, et al.: Current concepts in mild cognitive impairment. Arch Neurol, 2001; 58: 1985-1992.
- 3) Jekel K, et al: Mild cognitive impairment and deficits in instrumental activities of daily living: a systematic review. Alzheimers Res Ther. 2015; 7:17. doi: 10.1186/s13195-015-0099-0.

表1 文献検索から得られたMCIを対象としたIADL評価に関する研究

著者	研究手法	評価尺度	IADL下位項目
小原ら* (2015)	横断研究	高齢者総合機能評価	買物、電話の使用、移送の形式、服薬管理、財産取り扱いの5項目
大内ら (2013)	横断研究	オリジナル	買物、家事、洗濯、移送の形式、服薬管理、財産取り扱い、家庭生活、道具の使用、社会生活に関する27項目
Ouchiら (2012)	縦断研究	オリジナル	買物、家事、電話の使用、洗濯、移送の形式、服薬管理、財産取り扱い、道具の使用、地域生活に関する21項目
植田ら* (2008)	横断研究	オリジナル	買物、食事の準備、家事、洗濯、移送の形式、財産取り扱い、仕事、旅行に関する20項目
花木ら (2007)	縦断研究	兵庫脳研版日常生活活動表	買物、食事の準備、電話、食事の片づけ、掃除、布団、洗濯、火気、スイッチ、金銭管理、活動の11項目
川原田ら* (2007)	横断研究	Frenchay Activities Index	買物、食事の準備、家事、洗濯、移送の形式、服薬管理、趣味に関する15項目
植田ら* (2006)	横断研究	オリジナル	買物、食事の準備、家事、洗濯、移送の形式、財産取り扱い、仕事、旅行に関する20項目

*健常高齢者と比較している論文